



夢に向かって
は
翔ばたいて
「磨き・高め・支え」

大仙市立豊成中学校
学校報 NO.16
H 29. 6. 28
文責 今野敏行

キャリア教育を通して...

「キャリア教育」とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達(※)を促す教育」と定義されている。

我が国の次代を担う子どもたちが、どのような状況にあっても、これに適応したり、置かれている状況を自分で打ち破ったりしながら、社会の中で自分の能力を発揮できるように育成することが必要であり、勤労観・職業観を自ら形成・確立できるようになることを目標とすべきとしている。

※社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程

高校生に対し、今自分が通っている高等学校に入学した動機について尋ねたところ、普通科の生徒の約6割は「自分の学力にあって」と回答し、「自分の個性を伸ばすことができると思う」、「自分のやりたい勉強ができると思う」と答えた生徒はそれぞれ15%に満たないと結果となった。目的がはっきりしないまま高等学校へ進学したり、「とりあえず」大学へ進学したりする生徒が多くいること、また、学校での生活や学び、進路選択に、子どもたちがはっきりとした目的意識を持って取り組めていないということが、キャリア教育にかかわる問題として浮かび上がってくる。

◆学校での生活や学び、進路選択に対する目的意識の希薄さ



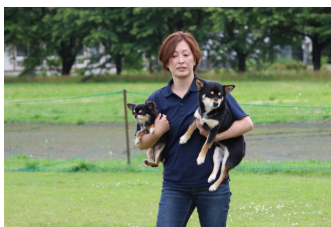
- ◆社会の「本物」に触れさせること、“働くことの喜び”を伝えることの重要性
- ◆“世の中の実態や厳しさ”を伝えることの重要性
- ◆“働くことの喜び”と“世の中の実態や厳しさ”の両面を学ぶ
- ◆「キャリア教育」で「なぜ学ぶか」を学ぶ

進路学習 II

訓練士から...

学ぶ

☆6月23日、進路学習II「訓練士から学ぶ」を小中連携学習として行いました。講師には、藤岡めぐみさん(株)アイビー代表取締役 他三名からお出でいただき、仕事する魅力・働くことについて学びました。警察犬・救助犬訓練士、トリマーである藤岡さんから、訓練の様子(追跡追及、臭気選別、災害救助等)を実践していただきました。犬との信頼関係が一番だというように、言葉一つで犬が活動、行動する様子に小中学生からは驚きの声と拍手があがりました。救助犬活動では、生徒が段ボールの中に潜んでいるのをいとも簡単に当てる様子から、災害時の重要な任務として救助犬の必要性を強く感じました。また、後半には「ふれあいコーナー」を設け、中仙東保育園児も子犬たちとふれあう時間を過ごしました。児童生徒からの質問にも丁寧に答えてくれた藤岡さんからは、様々な職業に従事している方がいること、やりがい、挫折したことなど貴重なお話を聞くことができました。



今後の体験的進路学習

- 7月19～20日 宿泊体験学習 (1年生:秋田市方面)
- 8月2～3日 職場体験学習 (1年生2年生:中仙地域、角館地域事業所)
- 9月11日 ものづくりマイスターに学ぶ (1年生2年生3年生:職業能力開発協会)
- 9月20日 著名人に学ぶ (1年生2年生3年生:夢の教室ピアノ奏者:佐藤卓史)
- 10月30日 生き方を学ぶ (1年生2年生3年生:きらきら農園:小松瑞穂 小澤はるか)
- 11月1日 上級学校に学ぶ (3年生:国際教養大学)
- 11月27日 生き方を学ぶ (1年生2年生3年生:eco実験パイター らんま先生)
- 12月10～12日 修学旅行 (2年生:京都 大阪方面)

学校教育に求められている姿

「生きる力」の育成
～確かな学力、豊かな人間性、健康・体力～

社会人として自立した人を育てる観点から

- ・学校の学習と社会とを関連付けた教育
- ・生涯にわたって学び続ける意欲の向上
- ・社会人としての基礎的資質・能力の育成
- ・自然体験、社会体験等の充実
- ・発達に応じた指導の継続
- ・家庭・地域と連携した教育



キャリア教育の推進